

ミツバフウロ *Geranium wilfordii* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎の基部は地をはい、上部は立ち上がってよく分枝し、高さ 30～80cm になる。葉は対生し、長い柄があり、葉身は茎の下部のものは 5 深裂、上部のものは 3 深裂し、幅 3～10cm、裂片には大きな数個の鋸歯がある。托葉は離生し、細い。花期は 7～10 月、葉腋から長さ 3～4cm の花柄を出し、その先に 2 個の花をつける。花は淡紅色またはほとんど白色、直径 1～1.5cm、花弁は 5 枚である。茎の上部、葉柄、花柄には、下向きの屈毛と圧毛がある。果実は長さ約 2cm で、熟すと下方から裂開し、種子をはじき飛ばす。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 39383）。1 カ所だけに生育している。

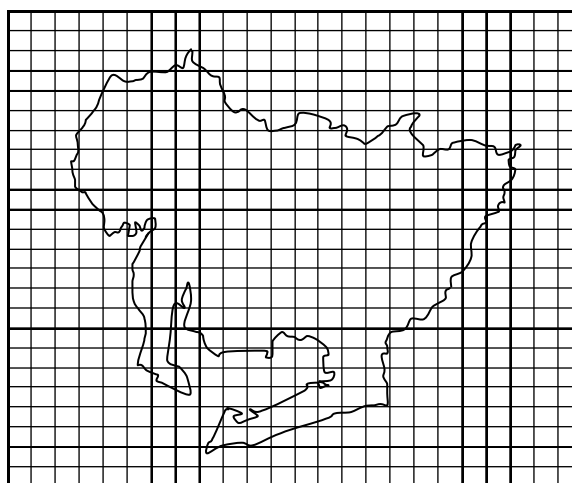
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的に見ればそれほど希少な植物ではないが、愛知県では極めて少なく、林道沿いの風穴状の場所に少数株が生育しているだけである。現地はスギが植林されており、そのうちに被陰されて衰退するおそれがある。

【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な管理が必要である。また道路を拡幅する際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

上部の葉が 3 深裂するのでミツバフウロと呼ばれるが、3 小葉にわかれるわけではない。

【関連文献】

保草本 p.88、平草本 p.218。